

はじめに

八戸学院大学の運営母体である学校法人光星学院は、平成 29(2017)年に創設 60 周年を迎え、「“教育の力”で地域・国際社会に貢献」する姿勢を明確化し、新立体的総合学園構想を展開しています。本学においては、令和元(2019)年度から新立体構想の 4 本の柱の中でも特に、「1. 教育の質（力）の向上」と「2. 学院の特色強化と連携」を最重点課題と捉え、令和 2(2020)年度においては更に「3. 地域連携による経営基盤強化と共生」を課題として掲げ、改善・改革に努めてまいりました。4 本目の柱である「新時代の国際教育の研究と実践」は、今後の課題と位置づけられています。

本学が取り組む教育・研究・社会貢献活動の自己点検・評価と公益財団法人日本高等教育評価機構の検証による認証評価は、平成 30(2018)年度より第 3 期を迎えました。本学は、令和 5(2023)年度に評価機構により八戸学院大学短期大学部と同時審査を受ける予定にしています。第 3 期の認証評価システムの特徴は、1) 評価の基本的方針として三つのポリシーを起点とする内部質保証(自らの責任で自主的・自律的な自己点検・評価を行い、その結果をもとにした自己改善により教育研究活動及び中長期的な計画を踏まえた大学運営の全般の質を保証すること)を重点評価項目として位置付けた点、加えて、2) 各大学の特色ある教育研究活動や事業を「特記事項」として三つまで記述し公表することが求められています。

本評価書において、これらの評価課題に対応できた内容の構築が達成されており、本学の使命・目的に則り教育・研究・社会貢献の活動に法人と全教職員が日々取り組んできた成果がまとめられました。新型コロナウイルス感染症拡大の防止対応に多くの時間が求められる状況下において、本評価書をまとめた自己点検評価委員会と各委員会をはじめ全教職員に改めて深謝いたします。

本学に期待されている安心・安全で持続発展可能な地域社会の構築に貢献できる人材の育成に向けて、IR・EM 事業の更なる充実をともなった内部質保証における学修成果の可視化と新時代の国際教育の更なる進化に向けた取り組みが求められています。本年度、外部評価委員会を設置し、自己点検評価書の検証と評定をいただく体制を確立いたしました。今後も全教職員と共に「計画・実行・評価・改善」である PDCA サイクルを効果的に運用し、地域の新たな発展に寄与できる大学への成熟を目指します。

八戸学院大学学長 水野眞佐夫